

カワゲラウオッチングを中心とした 川に学ぶ体験活動の推進

自然や人の生き方に触れ、
自分自身を高める!

活動概要

岐阜県では、水質の保全や浄化の重要性を認識すること
を目的に、水生生物による水質調査に力
を入れており、きれいな水に生息するカ
ワゲラの名前から「カワゲラウオッチン
グ」と名付け、普及に努めています。桜尾
小学校も、学習に「カワゲラウオッチング」
を取り入れた、「川」や「水」の学習を行っ
ています。ただ「カワゲラウオッチング」
を行うだけではなく、生徒の積極性を養う
ために、多くの発表会を取り入れた内容と
しています。

学校名	岐阜県山県市立桜尾小学校
活動場所	烏羽川の赤尾橋付近 武儀川の美山大橋 付近(いずれも徒歩で移動)
対象学年	6年生
科目	総合的な学習の時間「生き方を学ぶ」の活 動として実施
所要時間	年間を通じた活動



学習のねらい

桜尾小学校は、30年近く「花作りと読書」に取り組ん
でおり、花の手入れを通じて、児童の環境への興味も高く
なっています。さらなる発展として「地域の素晴らしい自
然や人々の生き方に触れ、自分の生き方を見つめる」こと
をねらいとしています。

また、知識や理解力はあるが、人前では恥ずかしくて話
せない子どもたちが多いことから、発表の機会を多く取り
入れて、人前で自分の意見を発表できるようになることを
ねらいとしています。

実践例

活動を行うにあたって



P プログラム内容

本学習では、1年間を大きく第1ステージ、第2ステージ、
第3ステージの3つに分けて活動しています。

各ステージごとの活動は次のとおりとなっています。

活動1 4~6月	第1 ステージ	～地域の川で自然の素晴らしさ を見つけ、調べよう～
活動2 7~10月	第2 ステージ	～環境保全活動に取り組む人々 の考え方や生き方に触れよう～
活動3 11~3月	第3 ステージ	～学んだことを周りに 発信しよう～

各ステージの最後に、「発表する機会」が入るように、
活動内容を決めています。



活動時期

・年間を通じた活動



参加した児童数

・6年生 13名



活動場所

カワゲラウオッチング（水生生物による水質調査）などの活動場所は次のとおりです。

- ・鳥羽川の赤尾橋付近
- ・武儀川の美山大橋付近（いずれも徒歩で移動）



使用した道具

カワゲラウオッチングの際に使用した道具は次のとおりです。

- ・タモ網
- ・入れ物
- ・簡易水質測定キット

STAFF

スタッフの手配

第2ステージにおいて、環境保全の活動に携わっている7名の方に講師を依頼しました。



現地下見

事前に見通しのよい場所の確認を行いました。水深30cm位までのところで作業できるように探しました。

活動内容



活動1 ～地域の川で自然の素晴らしさを見つけ、調べよう～

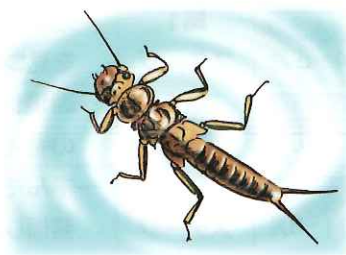


↑ カワゲラウオッチングの様子



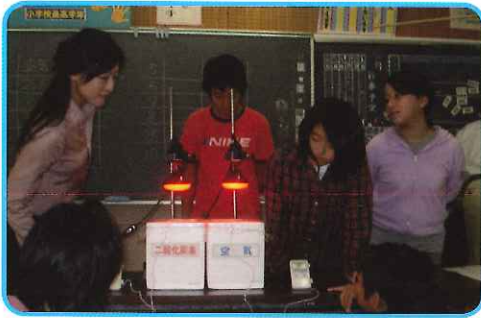
↑ 2006河川環境メッセin岐阜(7月13日)
※壁新聞学校部門最優秀賞

- 第1ステージでは、「水質調査」を中心とした活動を行いました。
- はじめに、カワゲラウオッチング（水生生物による河川の水質調査）や簡易水質測定キットによる水質測定を行いました。
- 子どもたちは、川には多くの生物がいることを知り、水の恵みや自然の素晴らしさを知ることができました。
- 本活動を通じて、子どもたちに川を守ろうとする心が生まれ、川の保全活動を主体的に考えるようになりました。その後、子どもたちの提案で川の清掃活動も行いました。
- 第1ステージの活動内容を、班ごとに壁新聞にまとめ「2006河川環境メッセin岐阜」に出展、発表もしました。





活動2 ～環境保全活動に取り組む人々の考え方や生き方に触れよう～



↑ ゲストティーチャーによる授業風景

- 第2ステージでは、環境保全活動に取り組む人々の考え方や生き方に触れる機会として、多くの講師を招きました。
- 環境保全活動に携わる7名の方に講師を依頼し、全14時間の授業を行いました。子どもたちは、環境保全のための活動は、身の回りにたくさんあることに気がつきました。
- 環境保全は、家族で取り組むと有効であることを知り、「我が家の環境大臣」と「キッズISO14000」と名づけた保全活動を行いました。
- 班ごとに活動内容を壁新聞にまとめ、「ぎふ環境フェア」に出展しました。
- 第2ステージまでの活動をアースレンジャー会議で発表しました。



活動3 ～学んだことを周りに発信しよう～



↑ 「アースレンジャー会議」での発表の様子

- 第3ステージでは、これまで学んだことなどを他学年、家庭、地域に発信する活動をしました。
- まず、カワゲラウオッチングとともに、学級で取り組んでいる「牛乳パックのリサイクル」について、パワーポイントを使って全校集会で発表し、牛乳パックのリサイクルの必要性を訴えました。給食のときには、牛乳パックの開き方を指導して回りました。
- 次に、ホームページで、自分が実践した保全活動、環境に対する願いや考えを紹介しました。
- 1年間の活動報告を壁新聞にまとめ、「こどもエコクラブ全国フェスティバル」に参加しました。
- 最後に学級全員で劇団「カワゲラ」をつくり、学習発表会（さくらっ子発表会：2月18日）や環境のイベント会場（岐阜こどもエコクラブ報告会&交流会：3月10日）で発表しました。



↑ 作成した壁新聞



↑ 「こどもエコクラブ全国フェスティバル2006 in かねやま」





活動による効果

本学習により次の効果がありました。

- ①環境教育を通して保全活動の必然性を感じ、主体的に考えて実行することができた。同様に、保全活動を訴えることにも必然性を感じ、自分の願いや考え、学習成果を堂々と発表することができた。
- ②人間もほかの生き物と共に生活していることや、全ての生き物の命の大切さに気づくことができた。また、多くの講師の方々から、人間の生き方について学ぶことができた。
- ③「我が家の環境大臣」、「キッズISO14000」など、家族全員の協力を得ながら取り組む過程で、自分や家族の生活を見直すことができた。また、家族とかわりながらお互いに助け合い励まし合う、人間性豊かな感性を育むことができた。

- ④環境保全活動は続けることに意味があることに気づき、人間としてどうあるべきかを問いかけながら、生涯取り組み続ける決意をもつことができた。



関連する単元

- ・3年生－理科「身近な自然の観察」
- ・5・6年生－道徳「自然や崇高なものとのかわり」
- ・共通－総合的な学習の時間

今回紹介した6年生の活動のほかにも、4年生の活動で「カワゲラウオッチング」を取り入れた活動を行っています。こちら、6年生と同様に、1年間を三つのステージに分け、各ステージの最後に発表会を取り入れています。



子どもたちの広場

- ◎ 水はとても冷たかったですが、すぐになれました。深みに入りパンツまでぬれてしまいました。
- ◎ 先生に、網の使い方を教えていただいたら、7匹も魚がとれました。
- ◎ 橋から見ると魚が泳いでいるのが見えるけど、カワゲラウオッチングをしたら、魚も1種類でなく、ドンコ、タナゴ、ドジョウ、オイカワ、モロコ、カワヨシノボリ、カワムツ、スナヤツメなど多くの種類がいることが分かりました。また、カゲロウやヤゴなどの水生昆虫もたくさん見つけることができました。
- ◎ 橋から見るときれいな川でも、カワゲラウオッチングをしていたら、ビニール袋や缶、茶碗のかけらなどの多くのゴミが落ちていることに気づきました。川にすむ生き物がかわいそうなので、今度みんなで清掃ができるといいなあと思いました。

- ◎ 水生生物は、ヒラタカゲロウやヘビトンボがすむきれいな水、ヒラタドROMシやコオニヤンマがすむ少しきたない水、ヒルやミズムシがすむきたない水、アメリカザリガニがすむ大変きたない水の生き物がいました。先生に聞くと、鳥羽川は、山の谷水や伏流水のきれいな水、家庭排水の汚れた水、田んぼからの栄養分のある水が集まっているので、いろいろな生き物がすんでいると説明してくださいました。
- ◎ カワゲラウオッチングをした結果、鳥羽川の水質はⅡの「少しきたない水」ということが分かりました。鳥羽川はきれいだと思っていたのに、残念です。
- ◎ 夏になったら水がきれいになっているかな。もう一度、鳥羽川でカワゲラウオッチングをしたいと思いました。